



県議選



高橋ちづ子衆院議員来る

4月5日(日) 9時30分  
藤島Aコープ前(345号)

関とおる候補と  
街頭からお話しします。  
ぜひお聞き下さい。



### 『六所神社 社誌』に寄せる 一言―「六所の神楽」

鈴木重雄 (八色木)

同誌は藤島の歴史を語る貴重な資料であり、まずもって編集委員の労苦に感謝したい。

春は祭りの季節である。六所の神楽が村々にやってくる。「社誌」には獅子舞とあるが、私たちは「六所の神楽」と言っている。4月に入ると獅子頭が出て、最初に元大庄屋であった中町の山本小右衛門宅で舞うのが恒例であった。山本家は庄内藩士で郡代を勤め、領内の暮らしや農作物の作柄を検見し、年貢の賦課などする役柄で、後に大庄屋として藤島に定住した家柄である。

**潮流** 舞が戻った列島ですが、サクラ開花の便りは各地から。都心でも近年よりも早くソメイヨシノの花が咲いて、今月末には満開の予想も出ています▼(むらさきのさわぐ所や初穂。俳句や短歌の革新者、正岡子規にも桜を詠んだ作品は多い。子規は日本に伝来された野球にも情熱を注ぎ、選手として活躍。大好きだった野球の匂いもなくなりません。へまり投げて見たき広場や春の華▼野球の用語を和訳したり、雅号に「野球(のぼる)」を用いたり。先達者として野球の普及に貢献しました。その子規の母校で彼が創設したとされる愛媛・松山東高校(旧制松山中学)の野球部が82年ぶりに出場したセンバツで初勝利をあげました▼相手も奇遇です。二松学舎大付は、前身の漢学塾で少年時代の夏目漱石が学んだところ。漱石は松山東とも縁があります。教員として赴任し、その経験を生かして小説「坊ちゃん」です。同じ年に生まれた子規と漱石は、生誕を通して互いに敬愛する「長友」でした▼話題を呼んだ対戦は最後まで手に汗握る大接戦に。大先輩たちもさぞハラハラドキドキしたでしょう。のちに俳優、文章と呼ばれた子規も、批評をぶつけ合っただけで切磋琢磨しました▼若くして病にたおれた子規は、病床のなかでこんなことを書いています。「何事によらず、革命または改良ということは必ず新たに世の中に出てきた青年の力」であると。球児たちの一投一打に、若い命を燃やしながら時代を変えていった先人の姿が重なりました。

しんぶん赤旗 3月26日付

## 「センバツ」でつなぐ正岡子規と夏目漱石

―「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

しんぶん赤旗3月26日付「潮流」。82年ぶり出場の松山東が二松学舎大附属に5-4で競り勝った。松山東は、旧松山中で子規が卒業し漱石が赴任した『坊ちゃん』の舞台、二松学舎大附属は、前身の漢学塾で漱石が学び、いずれも2人とかかわる学校である。奇しくも、共に1867年(明治元年)の1

平成27年度 藤島スクールバス運行業務の委託契約

1号車	大和交通(株)	2,594,808円	(H27/4/1~10/31)
2号車	いでは観光バス(株)	2,881,400円	(H27/4/1~10/31)
3号車	いでは観光バス(株)	14,327,700円	(H27/4/1~H30/3/31)
4号車	(株)ハイヤーセンター	3,078,000円	(H27/4/1~10/31)



年前)生まれで、親交(子規は漱石の下宿に50日居候、ペンネーム漱石は子規からのお譲りなど)があつた明治の俳聖と文豪で、子規は連歌の発句を独立させ俳句とし、「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」の名句(漱石の「鐘つけば銀杏ちるなり建長寺」への返句)を残し、漱石は『坊ちゃん』はじめ多数の名作で書くこともあるまい。さて、子規は好奇心

国会に出す前に米国会に説明 報道によれば、戦争ができる国にする法律作りの責任者である高村正彦副総裁が訪米し、法律作りの状況を説明したとの事。これを米国防長官は「歴史的な取り組みだ」と評価したのに対し、国会を延長しても成立させる意向を伝えたというのだ。▼高村という人は、誰に選ばれた、どこの国会議員か忘れたのか、はたまたその法律のために米国からナンラカがあつたのかと疑いますよネー。▼オソロシイことです。正に馬脚を現したのではありませんか。これで首相が「我が軍」と呼んだのも納得がつくというところ。米国は喜ぶはずですよ。▼安倍の前は、ナントカ特措法とかPKOだからと法律をゴマカシて自衛隊を外国に出し

(石川)